

内閣総理大臣
小泉純一郎 様

米国で起きた「同時多発テロ」に関する日本政府への要望書

日本国の舵取に日夜奮励くださっているあなたに、主イエス・キリストの憐れみと慰めを祈りつつ。

9月11日に起こったアメリカの悲劇から2週間が経ちました。この間、私たちは全世界の人々と共に、目撃した悲惨な出来事に衝撃を受けました。ようやくその衝撃から立ち直りつつありますが、容易には癒されることのない悲しみを背負い込んだ人々のことを思うと、簡単に平常心に戻ってはならないと自分たちに言い聞かせています。あなたも同じように悲しんでおられると思いますし、怒りや焦燥、そしてアメリカの「同盟国」のリーダーとして一刻も早く形に表れる支援をしたいという気持ちも分かります。このような厭うべき犯罪行為に対して、それは一見、理解しうる反応でしょう。

しかし、この国の現在の舵取りを委ねられている政府に、次の行動を起こすことに慎重であってほしいと、私たちは要望します。私たちは今、危険な状態に置かれています。ここで私たちが犯す過ちは、世界に渦巻いている暴力への要求を拡大することになりかねません。

日本国が人類共通の遺産である憐れみと英知に導かれている国であると共に、信頼できる法治国家であることを世界に示せるかどうかは日本政府の決断にかかっています。あらゆる法的手段を用いて、この恐ろしい犯罪の犯人を確定し、然るべき法廷で裁くためのあらゆる支援を実行に移してください。

この恐ろしい犯罪の報復のために、どの国民であれ、これ以上尊い命を犠牲にしてはなりません。そのために暴力の拡大を全力を尽くして防いで欲しいのです。

私たちの国は第二次世界大戦において、今回の犠牲者の数の何千倍もの犠牲者を生み出しました。その犠牲の上に立って、現在の日本国憲法を国の舵取の羅針盤としてきました。暴力の連鎖を引き起こす軍事的支援を可能にする自衛隊法改正や周辺事態法の拡大解釈をしないでください。

この恐ろしい悲劇の中で平和を見出す知恵を神があなたにお与えになるように、人類のために正義と愛と英知に向かったあなたの精神と冷静な理性を後の世に歴史家たちが振り返ることとなるように祈っています。

2001年9月25日

宗教法人日本バプテスト連盟理事会